

泌尿紀要  
Acta Urol. Jpn.

Vol. 33, No. 5 ACTA UROLOGICA JAPONICA May 1987

# 泌尿器科紀要

第33巻 第5号 1987年5月

新しい酵素法によるポリアミン測定について 第6報: 血中総ポリアミン定量法の基礎的検討および 尿路性器癌患者における臨床的検討.....	小出 卓也・ほか	645
腎における異所性骨形成の2例および本邦報告36例の 臨床病理学的検討.....	郷司 和男・ほか	651
尿路結石内の真菌の観察.....	竹内 秀雄・ほか	658
経皮的腎切石術による腎機能の経時的変化 —NAG-index, $\beta_2$ -microglobulin を指標として—.....	矢島 勇臣・ほか	662
体外衝撃波による腎・尿管結石破砕術の臨床経験 第Ⅲ報: 完全鑄型結石症59例(64腎結石)の治療経験.....	坂 文敏・ほか	669
経皮的腎切石術50例の経験.....	岡 聖次・ほか	674
体外衝撃波による腎・尿管結石破砕術の臨床経験 第Ⅳ報: 下部尿管結石に対する治療経験.....	加藤 修爾・ほか	679
Calcitonin の腎癌・前立腺癌骨転移による骨性疼痛に 対する鎮痛効果.....	大西 克実・ほか	682
膀胱腫瘍術前深達度診断の検討.....	大日向 充・ほか	686
膀胱全摘標本の Mapping でみられた尿管粘膜の検討.....	金 春坤・ほか	692
進行移行上皮癌に対する Methotrexate, Vincristine, cis-Diamminedichloroplatinum Cyclophosphamide, Adriamycin, Bleomycin 併用療法 (MVP-CAB 療法).....	藤井 昭男・ほか	697
ヒト膀胱平滑筋のムスカリン性アセチルコリン受容体の定量および 正常, 閉塞性, 除神経膀胱における受容体量の比較.....	瀧田 徹	704
小児前立腺横紋筋肉腫の治療経験.....	竹前 克朗・ほか	713
クラミジア同定用キット (PAP) を利用した, クラミジアの 細胞学的検索と臨床成績.....	豊田 和明・荒木 博孝	719
岐阜市民病院における最近8年間の尿道炎患者の臨床的観察.....	土井 達朗・ほか	724
東札幌三樹会病院における臨床統計(第6報)1985年外来新患統計.....	丹田 均・ほか	730
副腎神経節神経腫の1例.....	中島 史雄・ほか	735
副腎 Black Adenoma による Cushing 症候群の1例.....	辻 明・ほか	738
腎部分切除術を施行した腎血管筋脂肪腫の1例 —術前診断における超音波検査, CT scan の有用性—.....	伊藤 直人・ほか	743
CT で偶然発見された腎乳頭状腺癌の1例 —その画像診断と穿刺吸引細胞像について—.....	立花 裕一・小林 信幸	747
両側性同時性腎癌に対し体外腎手術による 腎保存的根治術を施行した1例.....	青柳貞一郎・ほか	752
特殊な CT 所見を示した腎動静脈奇形の1例.....	秋野 裕信・ほか	757
機能的単腎者に生じた腎外傷後急性腎不全例.....	浜尾 巧・ほか	762
経皮的ドレナージにより対処しえた感染嚢胞を伴った 慢性透析中の嚢胞腎の1例.....	平野 章治・ほか	765
Distal ureteral atresia の1例.....	岸本 幸一・ほか	771
外陰部 Paget 病の膀胱転移の1例.....	黒田 治朗・ほか	774
膀胱憩室腫瘍の2例.....	呉 幹純・ほか	779
複雑性尿路感染症に対する Cefbuperazone (CBPZ) の 臨床使用経験.....	萬谷 嘉明・ほか	786
尿中尿酸測定キット (Sigma 社) の有用性.....	鈴木 孝治・百成智津枝	794
慢性尿路性器感染症における Cinoxacin 長期維持療法.....	林 祐太郎・ほか	799

Editor: Prof. Osamu YOSHIDA, M. D.

Department of Urology, Faculty of Medicine,  
Kyoto University, Kyoto Japan 606  
京都大学医学部泌尿器科学教室

## 購読要項 (1986年1月改訂)

1. 発行は毎月、年12回とし、年間購読者を会員とする。
2. 会員は年間予約購読料8,000円(送料とも)を前納する。払込みは振替に限る。口座番号 京都5-4772番 泌尿器科紀要編集部宛。
3. 入会は氏名、住所を記入のうえ編集部宛、はがきにて申し込めば所定の用紙を送付します。

## 投稿規定 (1986年1月改訂)

1. 投稿：連名者を含めて会員(年間購読者)に限る。
2. 原稿：泌尿器科学領域の全般にわたり、総説、原著、症例報告、そのほかで和文または英文とする。
  - (1) 普通論文の長さは、原則として、刷上り本文5頁(400字×20枚程度)、図(Fig.)10枚、表(Table)10枚までとする。
  - (2) 和文原稿はB5版400字詰原稿用紙横書き、楷書(ワープロ可)、当用漢字、現代かなづかい、平がなし、清書する。年号は西暦とする。文中欧語の固有名詞は大文字で、普通名詞は小文字で始め、タイプ(手書き不可)する。
  - (4) 原稿の表紙に標題、所属機関名、主任名、著者名の順に和文で併記する。下段に筆頭著者名と、2語からなる running title を付す。  
例；山田・ほか：前立腺がん・PSAP
  - (5) 英文抄録：和文の表紙、本文とは別に標題、著者名、所属機関名、主任名、5語(英文)以内の Key words、抄録本文の順にB5版ダブルスペースでタイプし、別にその和訳をつける。
  - (3) 英文原稿はダブルスペースでタイプし、原稿の表紙に標題、著者名、所属機関名、主任名、Key words (和文に準ず)、running title (和文に準ず)の順にタイプし、別に標題、著者名、所属機関名、主任名、抄録の順に記した和文抄録を付す
  - (4) 数字はすべて算用数字を使用し、単位 m, cm, mm, l, ml, kg, g, mg,  $\mu$ g, %,  $^{\circ}$ C などとする。
  - (5) 和文、英文原稿を問わず図、表、写真などは各々台紙に添付し、それらに対する説明文は別紙に一括して Fig. 1 ..., Fig. 2 ..., Table 3 ... などと記載する。説明文は英文が望ましい。原稿右欄外に挿入さるべき位置を明示する。写真はトリ
3. 掲載
  - (1) 論文の掲載は採用順とする。迅速掲載には迅速掲載料を要する。
  - (2) 紙代、印刷費、製本代は編集部で負担する。残額を実費負担とし、請求は論文掲載誌発行後に行なう。論文の長さが超過した場合、超過料を別途に申し受ける。
  - (3) 薬剤の効果、測定試薬の成績、治療機具の使用などに関する研究論文については、掲載料を別途に申し受ける。
4. 別刷：実費負担とし、著者校正時に部数を指定する。
 

ミシングし、図・表は誤りのないことを確認のうえ、トレースして紙焼したものが望ましい(コピー不可)。様式については本誌の図・表を参照する。

(6) 引用文献は必要最少限にとどめ、引用箇所を本文中に入れる。その数は30までが望ましい。和文は楷書で、欧文はタイプする。  
(例；山田<sup>1,3,7)</sup>、田中ら<sup>1,3-10)</sup>によると)

雑誌の場合—著者名(全員)：題名、雑誌名  
巻：最初頁～最終頁、発行年  
単行本の場合—著者名(全員)：題名、書名、編集者名、版数、巻数、引用頁、発行所、出版地、発行年

(7) 原稿を返却しないのでコピーを手元に残しオリジナルを書留で〒606 京都市左京区聖護院川原町54 京大病院泌尿器科紀要編集部宛送付する。

(8) 投稿原稿は編集委員会においてその採否を決定し、それに従って編集部は原稿の訂正、書き直しまたは返却を指定する権限を保持する。

(9) 校正は初校を著者による責任校正とし、再校以降は編集部が行なう。著者複数の場合校正責任者を投稿時指定する。

宮崎 重 新谷 浩  
吉田 修(主幹)

編集部員

石神 襄次

前川 正信

園田 孝夫

友吉 唯夫

泌尿器科紀要 第33巻 第5号 1987年5月25日 印刷 1987年5月31日 発行

発行 吉田 修 顧問 加藤 篤二 発行所 泌尿器科紀要刊行会

〒606 京都市左京区聖護院川原町54 京都大学医学部泌尿器科学教室内 電話(075)751-3327(直通)

印刷所 山代印刷株式会社 京都市上京区寺之内通小川西入